

イギリスのEUからの離脱宣言、アメリカでのトランプ政権の誕生、フランスやドイツでの極右政党の台頭と、世界各地で見られる自国第一主義は、どこの国民も持っている本音の部分であると思います。にもかかわらず何となく違和感を覚えるのは、現代社会は本音ではなく建前で成り立っている要素が多いからだだと思います。近江商人の言葉に「売り手良し、買い手良し、世間良し」があります。自己中心的な考え、行動を慎まないとお互いに有益な関係が持てないことの教えであると思いますが、世界各地で起こっているこの現象は、元をたどると貧富の差の拡大、いわゆる二極化が原因で、もはや精神論は通じない状態と危惧しています。裏を返せば、本音と建前、理想と現実の乖離がある一定の限界を超えてきたのかも知れません。

このページの論壇は、医療、福祉等に関する話題となっていますので、むりやりテーマに合わせますと、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の時には、外国の保険会社の参入により我が国の皆保険制度が危ないと騒ぎ、外国の医薬品、医療機器の高騰も心配されました。実際は、医薬品、医療機器の価格決定プロセスに企業側からの提案が盛り込まれることや、新薬の

保障期間が最短で5年、バイオ医薬品で8年と言った程度で、日常の診療に直接大きな影響はなさそうに思われています。これが10ヶ国によるTPP協定ですが、今回アメリカの離脱に伴い、今後は、日本とトランプアメリカとの2国間FTAでの交渉となります。医療の分野で、TPPと違ってきびしい状況になると思われませんが、あれ程騒いでいた日本医師会も、保団連もこの話題にさほど盛り上がっていないのも平和ボケした国民の本音かも知れません。

勤務医の立場から、地域包括ケアの一環として退院する患者さんの往診等、開業医の先生方をお願いすることが増え感謝している処であります。診療の傍ら往診をされている先生方に比べ、訪問に特化されている先生方と患者さんの間のトラブルが

耳に入ってきます。具体的には、初対面で安楽死のことばかり話されて落ち込んだ家族や、在医総管に関することと思われませんが、月1回でもいいと思われる患者さんでも2回の訪問でなくてはダメと言われてたり、定期訪問でない、いわゆる困った時の往診の対応が不親切であったりと、医療機関側の意見も聞かなくてははいけません。建前は医は仁術でも、本音は算術の先生もおられるのも現実なのかと、寂しく思っています。

論壇

本音と建前

茨城県保険医協会 副会長 福田 潔